

平成22年度財団法人国際エメックスセンター事業計画

平成22年4月1日から平成23年3月31日まで

事業方針

我が国及び海外における閉鎖性海域の環境保全に関する取組みの連携の強化を図り、積極的にこれに貢献するため、人的・知的ネットワークの有効活用を図るとともに、国内外の閉鎖性海域の環境保全に取り組む様々な市民、機関、研究者等の参加を得て、「多様な自然と人間が共生する持続可能な社会」を目指した事業を推進する。

事業計画

1 閉鎖性海域環境保全推進事業

ア 第9回世界閉鎖性海域環境保全会議（エメックス会議）の開催準備等

1)趣 旨

人類共通の財産である閉鎖性海域の恵沢を次世代に継承していくことが大きな責務であるという観点から、世界閉鎖性海域環境保全会議（エメックス会議）を開催してきた。また、会議は、世界のNGO、市民、科学者、企業関係者、行政担当者等が一堂に会する国際的・学際的な情報の交流の場及び新たな取組みの提案の場として開催してきた。会議の成果は宣言としてまとめられているが、これら成果をさらに発展させていくことが求められている。

2)経 過

エメックス会議は、平成2年（1990年）に第1回会議が神戸で開催されて以来、世界各地で開催され、平成20年（2008年）には、第8回エメックス会議が中国・上海で開催され上海宣言が採択されたところである。さらに、平成23年（2011年）に、米国メリーランド州ボルチモア市で第9回会議（EMECS9）が開催されることとなった。

第9回世界閉鎖性海域環境保全会議(EMECS9)

- ・開催予定時期 平成23年(2011年)9月(予定)
- ・開催予定場所 アメリカ合衆国メリーランド州ボルチモア市
- ・開催予定テーマ “Ensuring Accountability and Effective Communication for Successful Integrated Management of Enclosed Coastal Seas”
「閉鎖性海域の統合的管理を実現するための説明責任と情報共有環境の確保（仮訳）」

3)事業内容

EMECS9開催準備

- ・第1回アナウンスメントの発行(本年7月頃)に向けて、セッションテーマやアブストラクトの募集等について、メリーランド州政府及び現地組織委員会と協議を進めていく。
- ・第1回アナウンスメント発行後は、広報に努め参加者の拡大を図る。
- ・さらに、第2回アナウンスメントの発行(本年10月頃)に向けて、会議プログラムの詳細等について現地組織委員会等と協議を行っていく。
- ・現地組織委員会との役割分担等に係る覚書の締結を行なう。

EMECS10開催検討

第10回会議(EMECS10:平成25~26年〔2013~2014年〕)の開催地を内定していくため、科学・政策委員会と連携を図りながら適地選定に努める。

イ エメックス国際ワークショップの開催

閉鎖性海域が抱える海洋汚染等の課題解決のため、水質改善に向けた様々な取組が行われている一方で、発展途上国等の人口集中地域における沿岸域の改変や地球規模の気候変動に関連すると言われる沿岸域の変動や生物多様性の低下など新たな問題が生じている。

こうした新たな諸問題に適切に対処していくため、世界各地の先進事例の情報共有を図り、今後の沿岸域管理が抱える課題や方向性について検討を行うため、国際ワークショップを開催する。また、このワークショップを通じて、生物多様性条約第10回締約国会議やEMECS9への関心を高めていく。

- ・開催予定時期 平成22年9月頃
- ・開催予定場所 神戸市内
- ・テーマ(予定) (仮)沿岸域管理の現状と新たな課題 - 世界の閉鎖性海域からの報告

ウ エメックス活動の推進

国際的な調査・研究事業の推進に向けて、海外研究者等との人的ネットワークを構築していくため、関連する国際会議等に科学・政策委員等を派遣し、エメックス活動のPRを行う。

エ 国内外機関との連携

神戸市に集積する国際的な環境関係団体であるAPN(アジア太平洋地球変動研究ネットワーク)センターやIGES(財団法人地球環境戦略研究機関)関西センターなどと連携し、気候変動と海洋環境等をテーマとするシンポジウムを開催する。

- ・開催予定時期 平成22年11月頃
- ・開催予定場所 神戸市内

平成20年（2008年）に、PEMSEA（東アジア海域環境管理パートナーシップ）の非政府パートナーとして加入したが、これらのパートナーが一堂に会する第3回EAS（東アジア海域）パートナーシップ会議（7月中国開催予定）に参加する。また、エメックス会議の参画実績があるLOICZ（沿岸域における陸地 - 海洋相互作用研究計画）との情報交換等を進める。これらを通じて海外機関との連携充実を図る。

2010年10月名古屋市で開催される生物多様性条約第10回締約国会議の機会を捉え、関連イベントへの参加や展示会への展示等でエメックス活動のPRを行うなど、関連NPO等との情報共有を図る。

オ 世界の学生を対象とした青少年環境教育交流セッションへの派遣

私たちがこれまで受け継いできたかけがいのない環境を、将来にまで引き継いでいくためには、次世代を担う若者の認識を高めることが重要である。

閉鎖性海域の環境保全について、世界の学生が関心を深める機会づくりとするため、環境保全活動等に関する発表概要等の小論文公募を行う。審査の上選考された学生を平成23年にEMECS9の青少年環境教育交流セッションへ派遣する。

- ・ 募集予定時期 平成22年7月(予定 第1回アナウンスメント発行予定時期)から平成23年3月(予定)
- ・ 決定予定時期 平成23年6月頃

カ 調査研究事業

水質や底質、生物の生息環境の劣化等の進んだ湾奥部の環境の再生をめざして尼崎港に設置している人工干潟等の実証試験施設を共同研究の場として活用し、関係大学や研究機関と連携して閉鎖性海域における環境保全・創造方策に関する調査研究の推進を図る。

2 情報収集整備活用事業

ア 情報収集・提供システムの運用・管理

閉鎖性海域の環境保全と適正な利用に関する情報提供・情報交流基盤としてインターネットを活用し、ホームページ（日本語・英語）の運用・管理を行う。

また、内外の関係者が、閉鎖性海域に関する水質等の環境データや社会経済データ等の情報検索を容易にする「閉鎖性海域環境情報システム」の運用・管理を継続して行う。

イ エメックスニュースの発行等

当センターの活動状況、世界の閉鎖性海域の環境保全活動等を掲載した「エメックスニュース」を年2回発行する（日本語・英語）。

また、メール配信システム（メルマガ）を利用して、情報のタイムリーな提供を行う。

3 人材育成事業

ア 開発途上国の行政官への統合的水環境管理研修

我が国の閉鎖性海域における環境保全の経験を基に、開発途上国の中堅行政官を対象とした「沿岸域・内海およびその集水域における統合的水環境管理研修」を国際協力機構（JICA）の委託により実施する。

・実施予定時期 平成22年9月～10月頃（約2ヶ月間）

イ 海の環境学習人材育成事業

地域団体等を対象とした海の環境学習活動を推進するため、関係機関の協力を得て、御前浜の人工浅場や尼崎港内の人工干潟等を活用し、講義や生物観察会を実施する。

ウ 海外の若手研究者を対象とした能力開発研修

海外を往来する船舶等に起因する外来生物種の侵入が、既存の生態系に大きな影響を与えているが、外来種の侵入に際しては、現在普及している形態的分類法だけでは、外来種の侵入を早期発見し、その影響を低減させることは困難と考えられる。

このため、遺伝子マーカーを用いた同定技術の研修を実施し、東南アジア各国の研究者間で共有することにより、外来種侵入の早期発見・早期対応に資するとともに、生物多様性の保護に貢献する。（APN助成事業申請中）

・実施予定時期 平成22年7月頃

エ アジアへの水質改善技術移転

昨年度事前調査を行ったタイにおける水質改善ニーズに応えるため、タイから2名の研修員を受け入れ、自ら水環境再生計画を作成できるようになることを目的として、モニタリング、現地調査、ビオトープ技術などの研修を行い、日本の水環境再生技術の海外移転を図る。（TOTO水環境基金申請予定）

・実施予定時期 平成22年11月頃

4 普及啓発事業

ア エメックス国際セミナーの開催

海外における閉鎖性海域の環境保全の取組状況について、県民、企業、行政機関等に最新情報を提供するとともに、海外関係者との情報交流の機会を提供するため、科学・政策委員の来日機会等をとらえ公開セミナーを開催する。

平成20年(2008年)のEMECS8、平成21年(2009年)のEAS(東アジア海域)会議において「里海」に関する国際ワークショップを開催してきた成果を継承するとともに、「里海」の概念が沿岸域の統合的管理に関連することから、本年のテーマとして、世界の統合的沿岸域管理と「里海」を予定する。

- ・開催予定時期 平成22年6月頃
- ・開催予定場所 神戸市内
- ・テーマ(予定) (仮)世界の統合的沿岸域管理(ICM)と「里海」

イ 環境イベントへの出展等

エメックスセンター活動の普及啓発と閉鎖性海域の環境情報発信のため、エコフェスティバル等各種環境イベントに出展を行う。